

活動目的

先人が植え、育ててきたさくらを次世代の方々にも楽しんでもらいたいと思い、平の沢池の160本を守る活動しています。

活動内容

- 4月 夜桜ライトUPの開催
無料お茶・コーヒー他
- 5月 樹木に液肥散布(弱ってる木)
- 6-9月 土手の草刈作業
- 11~ 固形肥料(弱ってる木)
- 12月 剪定作業
- 3月 ライトUPの設置作業

メンバー数 活動場所

メンバー数 10名
活動場所 平の沢池
公報 馬路町自治会

連絡先

サクラ部会への問い合わせは
馬路町自治会 (tel22-0661)

さくら部会

私たちは中池・下池・蓮池を囲んだ桜並木の生長を手助けし地元の桜守との協力によって活動しています。
桜は他の植物に比べて復元力の弱いデリケートな樹木でありそんな特性を知ったうえで手をかければ、長い年月美しい花を咲かせてくれます。

活動場所 中池・下池・蓮池



活動報告



茶話会と方針



苗木植樹



古木の更新



古木に穴肥え



蓮池の鏡ざくら



川東線道からの夜ざくら



吳弥山 展望台からの夜ざくら



下池 土手の桜



桜の下を散歩



天狗楽病の剪定





苔にぬる水が、冷たくて気持ちいい。



湧き出し、谷を流れ、川に合流する



赤陽草葉が生えたセミジ。のさいながらも赤く色づいてくれています。葉が赤しき。



銀壁なす山景色 赤坂大池より望む



青野小学校



鮮やかな山景色 赤城大池より望む



自動車の運転ができない、自転車も乗れない、長い距離を歩くことが困難であるといっ、つい家の中に閉じこもりがちになってしまう高齢者があるように思われます。それで家にいながらして写真を見て楽しんでいただこうと『写真回覧板』なるものを作成した次第です。



【協力】 東本梅町自治会さま
民生委員さま



コンポストで地域と資源の循環計画！

by くらしゴト Labo



なぜこのテーマに取り組むことにしたのか

日本全国で私たちが出す「生ごみ」は年間推計で約 2,842 万トン。一般廃棄物の約 40% を占め、その内訳は約 70% が食品産業から、残り約 30% が家庭からの排出と言われている。そのほとんどは焼却処分されるが、約 80% が水分である生ごみは燃えにくく、焼却には生ごみ 1 トンあたり 760 リットルの助燃剤(重油)が使用されている。日本全体で 6000 億円のコストがかけられており、エネルギー効率が悪く環境負荷が高いという問題を抱えている。

ゴミをゴミとして捨てるのではなく、循環して「資源」として活かすことで、環境への負荷を減らすことになる。また、コンポストを展開していく中で、様々な問題を共に解決していく仲間、堆肥を受け入れる農家、その堆肥で育った野菜を購入する市民と横のつながりが広がっていくことができれば、地域と資源の循環という素晴らしいサイクルができるのではないかと考える。以上の目標達成のため今年度は以下の 2 つの事業を行った。

① 夏休み親子コンポスト教室

生ゴミの現状やコンポストの仕組み、世界のゴミ事情など小学生にもわかりやすい講座を開催した後、夏休みの自由研究で活用できるような「プランター de キエーロ」を製作しました。

また、当日は龍谷大学農学部学生さんたちも参加、子どもたちと一緒にコンポスト作りに関わってもらいました。

日 時：2021 年 7 月 26 日 (月) 講 師：木村真知子さん (ローカルフードサイクリング株式会社)
場 所：KIRICAFE (千歳町) 原田禎夫さん (NPO 法人プロジェクト保津川)
参加者：亀岡市内在住の親子 7 組
龍谷大学農学部嶋田ゼミ 11 名

参加者感想 (一部抜粋)

- ・生ゴミのことがよくわかった。キエーロ作りが楽しかった。これからたくさん使っていきたい。
- ・力仕事で大学生の方に手伝ってもらってようやく完成しました。リサイクルが進んでいない国なんだと実感しました。
- ・子どもがする木工としては少々難易度が高いように感じた。講演の内容は小学生でもわかるよう噛み砕いてよかったと思う。
- ・生ゴミを燃やしているのは日本だけというのにとっても驚きました。外国ではプラスチック包装がほとんどないことを知って、これからはプロデュースバッグを使ってレジ袋を減らしたいと思いました。これからは作ったコンポストを使って、生ゴミを燃やさず処理していきたいです。



プランター de キエーロ



講座の様子



キエーロの制作風景

② コンポストモニタリング事業

当日はガレリアかめおか創作室にて LFC の平さん、プロジェクト保津川の前田さんよりコンポストや環境についての講座を聞いた後、キエーロを製作する予定でしたが、前日に緊急事態宣言が出たため、急遽講師さんたちに講座内容を YouTube に録画してもらい、それを各自で視聴してもらいました。

当日は当初開催予定だった部屋の前で LFC の申し込み案内やキエーロのキット受け渡しのみとし、キエーロも作り方動画や説明書を見て製作してもらう形になりました。それでもみなさん問題なく完成したとのことでした。

約半年間キエーロと LFC コンポストをそれぞれ使用して頂き、その使い心地をアンケートに集計。また、2 月 26 日 (土) にオンライン座談会を開催してより具体的な声も聞きました。

日 時：2021 年 8 月 21 日 (土) 講 師：平由以子さん (ローカルフードサイクリング株式会社)
場 所：ガレリアかめおか創作室 原田禎夫さん (NPO 法人プロジェクト保津川)
参加者：キエーロと LFC コンポストのモニター 11 名



LFC コンポスト



キエーロ



HOZU キエーロの作り方

気づきと反省点、今後への課題

「夏休み親子コンポスト教室」は子供たちにも身近な環境問題として興味を持っていただけたので、今後も継続していき、楽しく習慣化していくきっかけ作りをしていきたいです。参加者が想定していた人数より若干少なかったため、チラシなどアナログな方法も積極的に取り入れた方が良かったかもしれません。

モニタリング事業であった「仕組みが理解できないため、うまくいかず辞めてしまった」という声からコンポストの意義や仕組みをいかにわかりやすく伝えるかがとても重要だということに改めて気づくことができました。今後もコンポストは講座とセットでしていくこと、またわからない時に気軽に聞ける仕組みづくりや、やる気を継続する工夫なども必要だと感じました。

また、コンポストは夏が分解しやすく、冬は分解速度が落ちるという特性があり、できれば生ゴミの分解が実感できる夏頃までにコンポスト講座を開催したいと思っています。

今回キエーロの製作方法を緊急処置的に動画で説明する形にしましたが、参加者にも好評だったので、今後も使っていきたいと思います。

アンケートを見て

半年間コンポストを活用して頂いての感想は概ね好評でした。ただ、秋からのスタートだったため、生ゴミの分解を実感しにくい様子でした。

コンポストは夏スタートが分解を存分に実感できて楽しいかもしれませんが虫の心配が少ないのは秋・冬です。

分解速度が遅くなると不安になるので、やはりそういう時に気軽に質問できたり、意見交換ができる場があれば理想かと思いました。

今後はそのようなソフト面の充実も大切だということがアンケートから見えてきました。

SYK 重利夢工房

重利の山を守る会

SYK 重利夢工房は住宅に隣接する放置された人工林を地域住民が山林の整備、間伐を進め倒木、落石等のない安全で美しい里山を目指して活動しています。「親と子の木工教室」「チエンソーアート講習」「森のコンサート」等を開催し山の会の活動を見てもらいます。私達はノルマを設けず
嬉しい!! (人のため地域のためになる)
楽しい!! (仲間と一緒に楽しく活動)
美味しい!! (ピザ窯を利用し美味しい料理)
 をモットーに仲良く、楽しく、遊び、活動しています。
 一緒に活動してくれる方募集中です。

活動の場所 亀岡市曽我部町重利の山の下



親と子の木工教室(夏休みに山から出た木でオモチャづくり)



渋谷菜津子さん(チエンソーアート、伐採の現地指導講師)



森のコンサート



小濱達郎ファミリーバンド

女声デュオ【プリランテ】

秋の休日に2組のアーティストの美しい歌声が重利の山に響きます。

環境整備の活動



伐採作業

桜の苗木植樹

ANGEL SMILE 21

2021～2022 活動の写真展

役員によるじゃがいも植え付け



ジャガイモ収穫



とうもろこし 枝豆・きのこ 植え付け体験





収穫祭



リモート報告会
可愛い写真がたくさん届きました

交流会
お楽しみウォークラリー



スマイルフェスタ写真展



エコバック作り出店

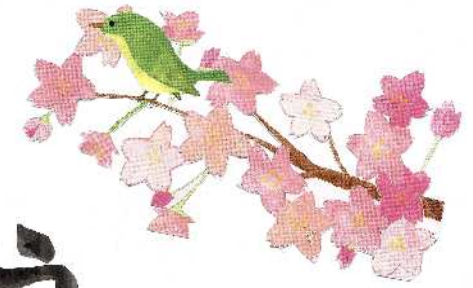


スタジアムにて 写真展の開催





顔の見える交流で それぞれの環境を育てよう

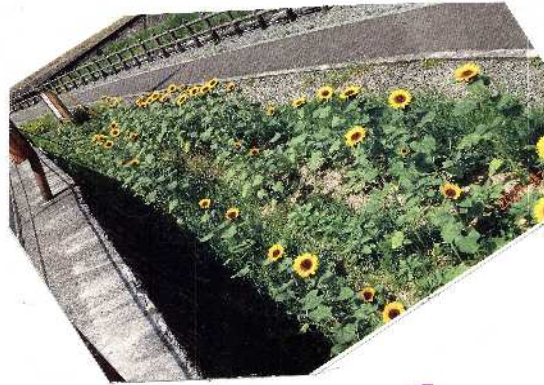


活動目的

羊谷川の自然保護・維持継続
地域住民との交流・対話



メンバー 23名



活動内容

遊歩道・花壇の除草・清掃
チューリップ・ヒマワリの植付

つつじヶ丘を美しくする会

活動場所

羊谷川 雲山橋～大山橋間

活動日 毎月第1日曜日

かめおかプラスチックごみゼロ宣言

みんなで考える亀岡の未来



特定非営利活動法人プロジェクト保津川

今年度は、米NY市で小学生の子供たちが発泡スチロールトレイ禁止を実現させるまでを描いたドキュメンタリー映画「マイクロプラスチック・ストーリー～ぼくらの作る2050年～」(2019年アメリカ、原題「microplastic madness」制作:Cafeteria Culture)の日本語吹替版制作を通じて、次代を担う子供たちとその保護者を中心に、海外ではどんな取り組みが進められていて、それはどのようにして実現したかを学び、亀岡市での今後の取り組みについて市民自らが考えるきっかけとなることをめざした事業を実施しました。

オーディションの開催

オンラインで実施した1次オーディションには、全国から578人の応募がありました。亀岡市内からも61名の応募があり、たくさんの子供たちが声優に挑戦しました。

1次オーディションには、亀岡市内からも20名が合格し2次オーディションに進みました。

京都先端科学大学亀岡キャンパスで、6月26日～27日にかけて実施した2次オーディションの結果、最終的には亀岡市内からは6名の声優が誕生しました。主役の1人も亀岡市内在住の生徒が務めることになりました。

吹替版の収録

7月14日～18日には亀岡市内で収録を行いました。声優以外にも、「ギャ」と呼ばれる大勢の声のシーンは詳徳小学校6年生児童が務めるなど多くの児童、生徒、学生が参加しました。また、NY市長役は桂川孝裕市長が、NY市議役は福井英昭議長が、PS15校長役は國府美幸つつじ小校長にそれぞれ務めていただきました。



プレミア上映会と舞台挨拶

日本語吹替版の完成を記念して、12月24日～30日にアップリンク吉祥寺(東京)とアップリンク京都(京都)でプレミア上映会を開催しました。プレミア上映会では、声優を担当した児童、生徒や市長、議長の舞台挨拶も行いました。



ギャラリーかめおかでの上映会とミニコンサート

2月5日には、ギャラリーかめおかで上映イベントとミニピアノコンサート、トークイベントを開催しました(かめおか遊友ネットワークとの共催)。また、映画の舞台となった米NY市をテーマにした市内在住のピアニスト東坂萌里さんによるミニコンサートも開催し、アートを通じて環境問題や市民活動を身近に考えられる機会として開催しました。

映画上映後は、米NY市在住の佐竹敦子監督とオンラインでのトークイベントを開催し、声優を務めた桂川孝裕市長、福井英昭議長にも登壇いただき、映画の制作背景の紹介の他、これからのプラスチックごみ削減の取り組みについて話し合いました。さらに、プラスチックごみ問題をより深く知ってもらおうと、京都先端科学大学や(株)堀場テクノサービスによるマイクロプラスチック調査に関する展示も行いました。



2022年度も多くのみなさんにこの映画をご覧いただけるイベントを実施する予定です。また、上映イベントの開催をお考えの方は、ぜひプロジェクト保津川までお知らせください。
<https://hozugawa.org> info@hozugawa.org

映画の詳細や予告編は左のQRコードを読み取ってアクセスしてください。

